

名古屋 文化情報

2023

Winter

No.404

NAGOYA
Cultural
Information

Pick Up Gallery/ギャラリー芽染

随想/ダンサー・振付家 石原弘恵さん

この人と.../都山流尺八竹琳軒大師範 野村峰山さん

視点/国際芸術祭「あいち2022」～今、を生き抜くアートの力

#zoom up/俳優・プロデューサー 松井真人さん



2023

Winter

表紙

ルッキング フォー ブルー バード
Looking for "Blue Bird"

(2022年/H202cm×W185cm×D30cm/PLA樹脂、ウレタン樹脂
木製パネル、スチール、etc)

誰もが知っているような壮大な物語と、その人しか知らないような細やかな物語。昨日在ったことが、今日また必ず同じように繰り返される保証はない、と実感するこの頃。二つの物語を往還する心持ちで・・・。



Contents

- Pick Up Gallery ギャラリー芽楽 2
- 随想 ダンサー・振付家 石原弘恵さん..... 3
- この人と… 都山流尺八竹琳軒大師範 野村峰山さん… 4
- 視点 国際芸術祭「あいち2022」
～今、を生き抜くアート之力 8
- #zoom up 俳優・プロデューサー 松井真人さん..... 10

「なごや文化情報」編集委員

- 上野 茂 (ナゴヤ劇場ジャーナル編集長)
- 杵屋六春 (長唄・唄方 名古屋音楽大学講師)
- 黒田杏子 (ON READING)
- 鈴木敏春 (美術批評・NPO法人愛知アートコレクティブ代表理事)
- 瀧津清仁 (指揮者)
- 吉田明子 (人形劇団むすび座 制作部長)

まつもと みさえい
松本 幹永



- 1985年 名古屋芸術大学美術学部絵画洋画専攻科卒業
- 1987年 アートドキュメント'87 / 栃木県立美術館(宇都宮市)
- 1996年 フィリップモリス アートアワード / 青山スパイラル(東京都)
- 1997年 「眼差しのゆくえー現代美術のポジション1997」 / 名古屋市美術館(名古屋市)
- 2006年 個展「市井の平行世界」 / はるひ美術館(清須市)

Pick Up Gallery

ギャラリー芽楽 ギャラリーガラク



柴田麻衣個展 Lost...～空に描かれたもの～
(2022年9月17日～10月2日)

ギャラリー芽楽は2000年に、名東区梅森坂に開廊しました。「時を超えて普遍的な美しさを持つ作品、今生まれている新しい価値を持つ作品のご紹介」を展示指針としています。A、B二つの展示室を有し、A室では主に絵画、B室では陶芸等の工芸作品を展示しています。毎月両室で二つの展覧会を同時開催し、お客様には一度にどちらも楽しみいただけます。作家はベテランから若手まで幅広く採り上げており、同時開催の作家は互いの作品を尊重しあいながら展示活動を行います。作品は主に現代美術ですが、個性豊かな唯一無二の作品との出会いは心ときめくものがあります。今後もアートの普及のため粘り強く活動してまいります。お気軽にお越しください。

設立 2000年 代表 池田哲夫
住所 〒465-0065 名古屋市名東区梅森坂1-903
電話 052-702-3870

取り扱い作家 吉田淳治、栃原敏子、大島麻琴、柴田麻衣、三波千恵
柴田節郎、泉田之也、松永泰樹 ほか
ウェブサイト <https://www.gallery-garaku.ecnet.jp/>

随想

ダンス時代の変化



ダンサー・振付家

いしはらひろえ

石原弘恵

東京なかの国際ダンスコンペティション優勝など全国舞踊コンクールでの受賞多数。清洲MDA講師の傍ら大学非常勤講師と至学館高校ダンス部の指導者を務める。平成30年度名古屋市民芸術祭特別賞受賞。名古屋市文化振興事業団主催「みる・まなぶ・ダンス」の講師を務める。

近年、ダンスが盛んになってきたと感じる。その中でもジャンルを問わないフリーなダンスがとて増えてきていると思う。新型コロナウイルスの感染拡大を機に、急速にネットが普及し、配信技術の進化に伴い、劇場へ足を運ばなくても、ダンス公演をはじめとした舞台芸術を自宅や学校で簡単に鑑賞することができる時代に変化した。

距離の遠さのハードルが下がったためか、海外の影響を受けた創作作品が増え、その作風に新しい感覚を覚えることがしばしばある。そういった作品には、独自の視点で描かれた個性が溢れ、一つの作品の中でテーマが様々に変化していくものが増えてきている。しかし、私にとって斬新と感ずることであっても、観る人によっては、先人の作品に原形があったり、これまでの作品の焼き直しに過ぎないと感じることもあるだろう。時には斬新さという点では若干見劣りするとしても、きめ細やかな工夫の積み重ねで、質の高いコンテンツが生まれることもある。

この急激な時代の変化の中で、モダンダンスやコンテンポラリーも、より自由な発想や多様な表現を

求められるようになったのではないだろうか。エンターテインメントは、ステージングの中で観る人を楽しませる娯楽であり、観る人の心を突き動かし、想像力を刺激してくれるのではないかと感じる。また、演劇の世界では、ストーリーが展開していく中で、時にダンスシーンを効果的に採り入れていることも多い。その振付には、自由な発想で創られるコンテンポラリーが盛んに採り入れられている。

私は、ダンスとはさまざまなシーンでコミュニケーションが取れる唯一の方法だと思っている。ダンスを通して、ものの捉え方だけではなく、自由な発想を基に、考える力や想像する力が生まれてくる。いつの時代にも変化はつきもので、ダンスといってもただ踊ることだけではなく、演じること、つまり表現することを目的としたものが増えている。ダンスの世界にも新しい風が吹き、今やダンスは全世界で共有する時代に変化していることを痛感している。

この人と...



都山流尺八竹琳軒大師範 のむらほうざん 野村 峰山さん

芸能分野で東海地区初、人間国宝認定

2022年、尺八奏者の野村峰山さんが重要無形文化財保持者（いわゆる人間国宝）に認定された。この制度は工芸技術分野と芸能分野に分かれており、1954年の文化財保護法の改正により、この制度が確立して以来、芸能分野では東海地区初の保持者となった。

東海地区のみならず、邦楽界全体のけん引役となられた峰山さんにお話をお伺いした。

（聞き手：杵屋六春）

父の勧めが一生の仕事に

—そもそも尺八を始めるきっかけは何だったのでしょうか。

私は1957年7月12日に三重県川越町で生まれました。身体もある程度成長し、尺八を始めるのに適した年齢といわれる10歳になった頃、父（樋口賛山）から尺八の手ほどきを受けるようになりました。その後、父が師事していた鈴木鶯山先生のもとへ親子で通うようになりました。父は、若い頃に専門家になるようにも勧められたようですが、生活面の不安から、会社員として仕事をしながら、趣味として尺八を続けてきました。息子にもその趣味を、と考えていたようです。



父とともに演奏する峰山さん

小学生の頃は、同級生たちには尺八をやっていることを隠していました。エレキギターやロックが持てはやされる時代に、尺八を習っているとはとても話せませんでした。

青春時代の尺八への思い ～箏曲正絃社・野村正峰先生との出会い

—峰山さんが尺八を人前で初めて披露されたのはいつのことですか。

中学生の時、邦楽器に理解があった音楽の先生の声掛けにより、三泗地区合唱コンクールで、尺八とピアノで伴奏するこ



日米交歓会(1972年)

とになったのです。また、1972年には四日市市と米国ロングビーチ市との姉妹都市交流の日米交歓会で「千鳥の曲」を演奏しました。

中学時代は剣道部に所属し、あざだらけで尺八の稽古に通う文武両道の青年時代を過ごしていました。

高校時代は尺八だけでなくギターを演奏し、ロックバンドを組んで活動するなど幅広く音楽を楽しんでいました。

高校卒業後は一般企業に就職が決まっていたのですが、高校3年生の時「第一回都山流尺八本曲コンクール全国大会」での金賞受賞がきっかけで、箏曲正絃社家元の野村正峰先生から、働きながら演奏活動をしてみないか、とお誘いいただいたことで、尺八奏者としての新たな人生がスタートしました。

仕事を終えた深夜のCBCスタジオで、正峰先生が作曲された130余曲の作品を録音する日々が続きました。その音源はカセットテープとして発売され、講習会など全国に出張、NHK邦楽技能者育成会（以下：NHK育成会）第22期生として毎週名古屋～東京間を往復するなど、多忙を極める毎日でした。



野村正峰さんと

演奏パートナーが人生のパートナーに?!

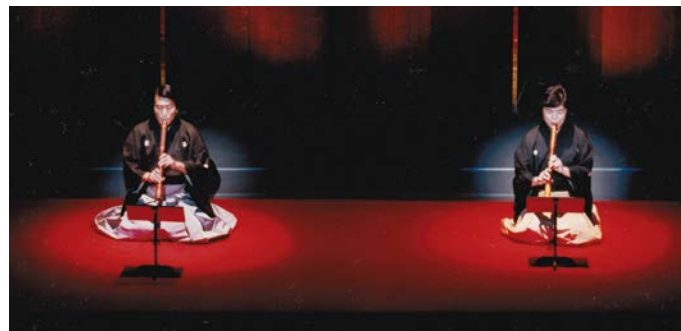
一峰山さんといえば、箏曲奏者の野村祐子さん（二代目正絃社家元）との「おしどり夫婦、ぶりが有名ですが（笑）。

祐子はNHK育成会の同期生で、新幹線の道中がいつも一緒でした。同じ年頃の仲間という感じでしたが、講習会などで一緒に行動することが多くなり、周りの方が気を使ってくれたり…。正峰先生の養子になりました。なんだか照れ臭いですね（笑）。



祐子さんと

正峰先生は箏・三絃だけでなく、尺八も演奏されます。先生からは「譜面通りの演奏ではなく、ハートで演奏することを心がけること。作曲面では二重奏、三重奏などの編曲が出来るように」など多くを学びました。また広く学ぶことに理解があった正峰先生の助言もあり、NHK育成会卒業後、東京でのご縁が出来た初代山本邦山先生に師事することになりました。



山本邦山さんと

人間国宝 山本邦山先生に師事

一日本を代表する尺八奏者である、邦山さんの指導はいかがでしたか。

邦山先生は大変細やかで繊細な演奏をされる方でしたが、普段のお稽古ではあまり細かなことはおっしゃらず「舞台で学べ、現場で学べ」と教えを受けました。しかし、私のリサイタル本番前には大変熱のこもった稽古をしてくださいました。また、邦山先生はいつもご自身の演奏を振り返るため、私に舞台袖で先生の演奏を録音するよう指示されました。「録音機で録った演奏が一番正直な音色だ」と教えてくださり、邦山先生のようなレベルの方でも毎回振り返りをしていることに大変感銘を受けました。演奏の録音は私も今でも実践しています。

尺八ユニット結成～作曲、洋楽器とのコラボレーションなど多岐にわたる活動の中で

一尺八は人の声と同じで、自分の出した音が正確には分からない。これは長唄唄方である筆者にもいえることで、大いに勉強になりました。峰山さんは作曲、編曲家としても活躍されています。またオーケストラとの共演など、洋楽器とのコラボレーションを盛んに行われていますよね。

私が20代の頃、邦山先生の門下生5人で、ユニット「尺八1979」を結成しました。当初は既存の古典曲や現代曲の演奏をしていたのですが、次第に自分たちで作曲した曲を演奏するようになりました。これには「君たちは演奏家なのだから、作曲に携わるなんてとんでもない」と批判的な意見もありましたが、共感の声も多くあり、全国縦断コンサートを開催するほどになりました。やがてこの活動は、洋楽やコンピューター音楽との共演などしたいに多岐にわたるようになりました。



尺八1979のメンバー(中央が峰山さん)

尺八と洋楽器の相性は意外に良いのです。倍音の響きは洋楽器が正数倍の倍音、邦楽器はそれ以外の倍音、互いの倍音が共鳴し合うため違和感はありません。むしろ世界観が広がるように感じるので。

セントラル愛知交響楽団との共演や、尺八と相性が良いと勧められたファゴットとの二重奏、また、電子音響音楽の公演ではマルク・バティエ作曲の「都鳥」で、「伊勢物語」をフランス語で語ったコンピューター音楽と共演しました。コンピューターの演奏は時間に正確なので、楽譜とストップウォッチから目が離せませんでした。

今後も、尺八の可能性を広げる機会があれば積極的に参加したいですね。



セントラル愛知交響楽団との共演

前代未聞のコンサートが大反響!

一とこで峰山さんは2004年、来場者500名に簡易尺八を配る前代未聞のコンサートを開催され、新聞でも大きく報道されましたね。

このコンサートは大変話題になりました。普段はチケット販売委託先からは「売れ残ったチケットはどうされますか」と聞かれることがほとんどでしたが、この時ばかりは「チケッ



山積みされた簡易尺八



コンサート風景

トを補充してください」と連絡があり、お弟子さんたちが持っていたチケットを回収したものでした。思いがけない大反響に驚きました。尺八普及活動の一環としての企画でしたが、写真にもあるようにお客さんたちが大変楽しそうに尺八を吹いている姿が、今も脳裏に焼き付いています。

音楽は再現芸術 ～尺八の魅力を次世代へ伝えたい

一峰山さんは「峰山会」を主宰するなど、各所で後進の指導に当たっていらっしゃいます。筆者の母校である東京藝術大学でも講師をされていました。これから音楽家を志す若者たちにアドバイスをお願いします。

最近の学生さんは新しい音楽には積極的なのですが、古典となるとそうはいきません。流派を意識しない人も増えていて、都山流にも琴古流にも素晴らしい本曲（流派独自の曲、また本来その楽器のために作られた曲）があるものの、大変難しいため敬遠されてしまいます。残念なことですが、楽譜通りの演奏は出来ても、大切なのは楽譜では表現できない音楽性を伝えること。感覚で演奏するのが得意な学生さんには、自分の演奏の裏付け、つまりデータを取りなさいと伝えています。それが再現性につながるのです。

再現性というのは、何度演奏しても同じ演奏が出来ること。これは大変難しいことなんです。私は都山流の尺八を長年学んできましたが、「音楽は再現芸術である」と厳しく指導されました。レコードで聴く音楽と、生演奏で聴く音楽が同じであることが理想で、それが出来る力を身に付けなさいと教えられました。それが音楽の完成度を高めることになるのです。

古典をわかりやすく世界へ発信するために

一今回の人間国宝認定には、都山流の流祖・中尾都山作品の五線譜化が高く評価されたとお聞きしました。

五線譜にすることに、それほど苦労は感じませんでした。少し専門的になりますが、譜面には「規範譜」と「記述譜」の

二種類があり、都山流の尺八譜も私が書き起こした五線譜も規範譜に該当します。「規範譜」では伝えきれないニュアンスは口承なのですが、工夫して五線譜に書き加えました。口承の譜面化は大変難しいのですが、今の学生さんたちは楽譜頼りのところがあるので、それも考慮しました。

一古典芸能の世界では、楽譜に記していないことを口承で教えるのが師匠の大きな役割だと言われています。峰山さんはその部分を譜面化することで意識を変え、現代にマッチした方法で古典芸能の魅力を伝えようとしています。名古屋音楽大学の講師を務める筆者にとっても実に有意義に感じられました。

2018年には英国ロンドンで開催された「ワールド尺八フェスティバル」にも招待されましたね。

「ワールド尺八フェスティバル」は、岡山県美星町でスタートした尺八愛好者のための祭典で、約4年ごとに世界各地で開催されています。私は2008年のシドニー（オーストラリア）から3度参加しています。流派を問わず多くの尺八愛好者が世界中にいます。この祭典には奏者だけでなく、研究者や製管師なども参加し、コンサート、ワークショップなどが行われます。

海外での演奏は度々ハブニングもありますが、一緒に演奏するのはとても楽しいものです。もはや尺八は日本だけのものではなく、世界でも高いレベルの音楽と評価されています。フェスティバルに参加する度に大きな刺激を受けています。



ワールド尺八フェスティバル

一改めて、邦楽演奏家でもあるご家族への思いを聞かせてください。

最も多く共演しているのが祐子。箏曲奏者として信頼しています。もちろん妻として大切に思っていますが（笑）、演奏

家としての相談相手でもあり、長年舞台を共にしてきた同志のような存在です。

息子（尺八奏者・野村幹人さん）には、この時代にこの職業で大丈夫かな、という心配はありますが、演奏に関しては親子というよりは師匠、あるいは同業の先輩として、自分が持っている技術・知識の全てを教えていきたいと思っています。私には後継者を育成する責任があります。息子もその思いを受け止めてくれているようです。



ご家族とともに

人間国宝になって、改めて尺八普及へ思うこと

一人間国宝の認定が決まってから、名古屋市内で初のコンサート（2022年10月4日宗次ホール）が開催され、満席の観客からは峰山さんを祝福する大きな拍手が沸き起こりました。最後に認定が決まった現在の心境をお聞かせください。

認定のご連絡をいただいた時には、びっくりしました。東海地区で初の認定者となるわけですが、私は東京でも多くの演奏会に出演し、文化庁芸術祭にも参加しています。そうした活動も評価されたのかな、と思っています。

今後は代表を務める「日本尺八演奏家ネットワーク」の活動も益々広げていきたいと考えています。創作作品の演奏会や、尺八奏法講座、サロンコンサートなど、尺八の理解を深めるための活動に力を注いでいきたい。名古屋と東京の二拠点で、地域、聴衆に合わせた内容の演奏会を充実させたいと思っています。また様々なジャンルの方々とのコラボレーションも発展させていきたいですね。

尺八への熱い思いを語ってくださった峰山さん。2023年には「野村峰山 人間国宝認定記念コンサート」（1月27日宗次ホール）を開催予定である。（本稿執筆は2022年11月）

Report

視点

国際芸術祭 「あいち2022」～ 今、を生き抜くアートの力

「あいちトリエンナーレ」から名称を変更した国際芸術祭「あいち2022」（以下：あいち2022）が2022年7月30日から10月10日まで愛知県内の4会場（愛知芸術文化センター、一宮市、常滑市、有松地区）で開催された。73日間の会期で、延べ48万人もの来場者が鑑賞した。ちなみにトリエンナーレ（Triennale）は3年に1回、ビエンナーレ（biennale）は、2年に1回開かれる美術展覧会のことである。どちらも原意はイタリア語。語源となったベネチア・ビエンナーレは、世界中から美術作家を招待して開催される展覧会として100年以上の歴史を持つ。近年は各地でトリエンナーレ、ビエンナーレが盛んに開催されており、国内でも20ヶ所を超えている。（まとめ：鈴木敏春）

トリエンナーレの現在

トリエンナーレやビエンナーレの多くは美術関係者間の国際交流を主な目的としているが、観光客の集客や町おこしといった地域の活性化も兼ねたイベント的な側面も強い。また、地域の歴史や文化的な特色を可視化する機会にもなっている。世界中から美術家を集める招待展や、世界規模のものから国内限定の公募展など、規模も形態もさまざまである。国際規模の展覧会の内容は、キュレーター（学芸員）や芸術監督の選任に拠るところが多く、他のトリエンナーレやビエンナーレと出品作家の顔ぶれやテーマが似たり寄ったりになっているという指摘もある。今回のあいち2022は地元作家や地域への関心が高く、前回の「表現の不自由」展のようなラジカルな展示はあまり見受けられなかった。

トリエンナーレの歴史をみると、公衆による冷やかしと、文化芸術関係者による擁護との温度差が表れるようになり、いつからか現代美術と一般観衆との関係性を特徴づけるようになった。それを抜け出す動きが随所に感じられたあいち2022は、これまでのトリエンナーレの在り方に比べても一段と前進していると思う。

片岡真実芸術監督の“過去から未来へ時間軸を往来しながら「STILL ALIVE」を考える”という問題提起は、ポストコロナの時代において成功している。個人的にも関心の高い展覧会となった。

4会場での作品との出会い

あいち2022のテーマとそれに基づくビジョンを踏まえ、特に目を引いた展示をいくつかピックアップしておきたい。



小寺良和《バクダン》



ローマン・オンダック《イベントホライズン》

小寺良和は「現代を、この瞬間を、どう生き抜くのかを考える」というビジョンに合致した作家だと思う。小寺は福祉施設で生活しながら40年以上陶芸作品の制作を続けている。戦争のニュース映像から受けた衝撃が彼を制作へと向かわせている。《バクダン》と名付けられた彼の作品は、穴だらけの土の塊のように強い存在感を放つ。以前、彼と彼の支援員の方のドキュメント映画の撮影に関わったこともあり、今回選定作家に選ばれたことを嬉しく思う。

ローマン・オンダックの出展作品《イベント・ホライズン》（2016）は、一本のオーク材の幹を100枚に切断して、1917年から2016年までの歴史的な出来事を年輪に応じて刻印した作品である。

「過去の多様な物語をいかに現代に蘇らせるのかを考える」というビジョンに照らして、升山和明のコラージュ作品はとても印象的であった。彼の作品は福祉施設で支援を受けながら、貼り絵、切り絵など複雑な過程を経て制作される。犬山市にかつて存在したショッピングセンター「清水屋」の外観とタクシーがモチーフだ。母親と買い物へ行く道中の楽しい記憶がテーマとなっており、人々の中にある記憶の愛おしさが現れている。



升山和明のコラージュ作品

塩田千春の《糸をたどって》は、使われなくなった一宮市の紡績工場を会場とした作品である。この工場跡は以前から、地元の現代美術家の発表の場として使われてきたが、ここに残る赤や黒の毛糸を使い、毛織物の機械や糸巻きの芯などをインスタレーションに組み込みうまく融合させていたのが印象的だった。この場を生きた様々な命、労働、エネルギーの記憶を蘇らせることに成功している。



塩田千春《糸をたどって》

地域の記憶と歴史を表現でつなぐ

同じく、毛織物のまちを象徴するように、一宮市役所のロビーには、羊毛でできた眞田岳彦の作品《白維》が展示されていた。これは造形家で繊維研究家の眞田が愛知の繊維文化に着目し、豊橋市を皮切りに県内6都市7美術館・博物館とともに行った「あいちNAU（絢う）プロジェクト」のワークショップの成果である。繊維の歴史について学んだ300人近い参加者が、羊毛を繰り返して撚り合わせにし、さらに眞田が樹木のような太い綱へとつくり上げた。愛知が継承してきた技術、愛知と世界の関係、人と人との関係、あるいは地域や自然との関係など、「絢う」ことを通して市民参加のネットワークがひとつの芸術作品に昇華している。



眞田岳彦《白維》

「伝統工芸、先住民の芸術などを現代芸術の文脈から再考する」というビジョンでは、伝統工芸と現代美術作家との交流も見ものだった。AKI INOMATAの作品は、以前から自然界における様々な生命の特性を生かした表現で知られていたが、今回、400年以上の歴史を誇る伝統工芸の有松・鳴海絞りの技術とミノガの幼虫、ミノムシが巣を作る技術の混淆を染物工場の協力を得て実現させた。

また宮田明日鹿はニット、テキスタイルなどの技法で作品を制



有松地区 岡家住宅に展示されたAKI INOMATAの作品

作。彼女が運営する「港まち手芸部」のような「おかんアート」の可能性を示唆する。

尾花賢一の作品は人々の営みや、伝承、土地の風景・歴史から生成したドローイングや彫刻を制作し、虚構と現実を往来しながら物語を紡いでいく。劇画調で描かれた作品は、漫画家のつげ義春や月刊漫画誌『ガロ』を思い出させる。今回の展示では、常滑市のやきもの散歩道の会場で、この地に生まれ、暮らす架空の「イチジク男」を起点に、個人の歴史と常滑市の歴史が重なり合いながら進んでいくインスタレーションを提示した。



尾花賢一のインスタレーション作品

地域主義としてのアートの開花と関係性

常滑ではあいち2022パートナーシップ事業の一つとして「時のカタチ / Shape of Time」展が開催され、常滑の陶芸作家の層の厚さに改めて感心させられた。下記の写真は地元で活躍する陶芸家佐藤融の作品。

今回のあいち2022は地元愛知の文化に地域主義が深く根付いていることを再発見した。注目を集めると同時に、当惑や批判も巻き起こし続ける現代美術の挑戦は続く。

1978年に成田空港が開港。そして学生運動の終焉。「故郷」に帰った学生たちは地域課題に視点を移した。それが「地域主義」に展開していく。それは民衆レベルの意識革命でもあった。町や村に住む人びとの「生活づくり」こそが最大の課題である。その前提条件として、地域共同体の構築が必要であり、それは「ものづくり」から「生活づくり」への転換を意味している。経済学者のカール・ポランニーは「私が願うのは、生産者としての毎日の活動において人間を導くべき、あの動機の統一性を回復することである」と言っている。（『経済の文明史』著：カール・ポランニー、訳：玉野井芳郎）

愛知でも1991年の「無冠の表現回路 エコロジーアートへ」展(名古屋市文化振興事業団主催)を皮切りに愛知県内の山河で野外美術展が開催されてきた。2000年の「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」を始め各地で芸術祭が展開されており、それは地域主義の表れだった。本来、「国際芸術祭 あいち」も「あいちトリエンナーレ」も子どもたちや高齢者、健常者や障がいのある人たち、その町に住むありとあらゆる人の手により、開催される祭典であるべきである。また都市の在り様は「地域主義」の発露として生まれるべきだろう。今回はその一端を見ることができた。



佐藤 融《精霊との遭遇》

参加させてください！」と頼み、劇団あおきりみかんに入団しました。

そして出演した作品が、劇団あおきりみかん其の壱『誰が為にベルは鳴る』（作・演出：鹿目由紀）というベルマーク委員のお話です。僕は稽古中に「とにかく相手役の話を聴きなさい」と演出を受けました。今は演技中はとにかく相手の台詞をよく聞いておっていますが、当時はなかなか難しく、演出家のチェックはとにかく多かったです…本当に多かったです。

それから20年以上たっても、台詞を覚えたり、相手と作品をつくったり、稽古はなかなか大変なこともあります。僕の人生は演劇と出会って、一緒に演劇をつくる仲間と出会って、とても豊かなものになりました。演劇に出会えて本当に良かったと思っています。

劇団あおきりみかんはたくさんの作品をつくって、僕もたくさん役を演じています。最初は演劇だけで生活していくことは難しく、28歳まではアルバイトをしながらの生活でした。当時はお金がなくて、シーチキンとご飯しかないなんていう時もありました。それでも僕は運が良いというか、周りの人たちに恵まれて、今は作品づくりに集中できる生活になって、とても感謝しています。

鹿目さんの休団、新型コロナの影響

鹿目が2019年に劇団を休団してからは、僕が代表を代行しています。僕にとって団体は個人が集まったものであり、一人一人の夢が叶えられる場所であるべきだと考えています。団体のために個人が犠牲になることはなくていいと思います。僕は鹿目の作品を上演したいと思って劇団に入り、それは今でも変わっていません。劇団員一人一人にもそれぞれ劇団にいる理由があるし、その違いが面白いと思っています。



劇団あおきりみかん集合写真

新型コロナの影響ということですが、舞台業界も大きな影響を受けていると思います。劇団の公演や、他にも出演する予定の舞台がいくつか中止になりました。舞台の再開の時期は感染症対策を考えて一人芝居の配信からスタートすることにしましたし、2022年の現在でも公演中止のリスクは高いと思います。でもコロナ禍でも演劇に対する情熱はなくなることはありません。

2022年8月にまつプロ主催『父と暮せば』を上演

原爆投下後の広島を舞台にした井上ひさしさんの作品です。もともとこの戯曲が好きで、50歳を過ぎたころに上演させていただけたらと考えていました。しかしロシアとウクライナのことがあり、今やるべき作品だと思い上演を企画しました。僕は、演劇は平和じゃないとできないと思うし、好きなことを上演できるのも平和だからだと思っています。僕らの親が戦争を経験せずに一生をすごせる年代だとすれば、僕らの子どもや孫の代まで、もっと



まつプロ第7回公演『父と暮せば』

言えば永遠にそれが続いてほしいと思うし、誰もが自由に文化芸術を楽しんで生きてほしいと思います。鹿目に演出を依頼したのですが、「なぜ今この戯曲を上演するのか」ということについてはしっかり聞かれましたし、その話し合いを経て上演できたことは良かったと思っています。

この作品を今、老若男女問わず多くの方に観ていただけたことは本当に喜ばしく思っています。内容に関しても、共演者、スタッフの皆さんに力を貸していただき、良い作品が上演できたと思います。共演者、スタッフ、お客様に恵まれて、本当に感謝しています。

最後に一言お願いします

とにかくめちゃくちゃいいお芝居を、あなたとつくりたい。

ここ20年くらいずっとそう思って演劇に取り組んでいます。僕は、演劇は私とあなたの間にある芸術だと思っています。「あなた」は共演者だし、戯曲だし、スタッフさん一人一人だし、お客様一人一人でもあると思っています。俳優がつくる芸術は一人で作るものではなく、誰かと誰かの間にあるコミュニケーションの芸術だと思うのです。

たとえば一人芝居でも、脚本家がいる、演出家がいる、スタッフの皆さんがいる、そしてお客様がいてくれて成り立っていますし、観てくれる一人一人の中に違った芸術の受け取り方があると思います。僕はそんなあなたとつくる芸術がとても面白いと思っています。

だからというか、そして、というのが分かりませんが、これまで一緒に作品をつくってきたみんなにお礼を言いたいです。劇団員、作家、演出家、俳優、スタッフ、家族、お客様に本当に感謝しています。“あなたと一緒に演じたから持った感覚”とか、“あの時あなたに感想を聞いて、手に入れた感覚”とか、そういうことがいっぱいあって、本当に感謝しています。ありがとう。

世界が平和でありますように。みんなが幸せでありますように。



名古屋市芸術奨励賞授賞式の劇団員たち
(撮影:松井さん)

Information

親愛なる Mother Earth

名古屋市中区栄三丁目18番1号 名古屋市中区栄三丁目18番1号

名古屋市中区栄三丁目18番1号

Special Dancers Gift's

豊かで活力ある 未来への願いを込めたダンサーたちからの贈りもの。

2023 1.28 sat, 29 sun

開演時間 15:00 (14:15開場) 19:00 (18:15開場) 13:00 (12:15開場) 17:00 (16:15開場)

入場料 日時指定 自由席 一般 3,000円 友の会・障がい者等・大学生以下 2,700円

会場 名古屋市千種文化小劇場

雨の夜、土の声 (振付) 石川麗美 (石川麗美 Dance Company)

CROSS 一存する3人〜 (振付) 石原弘幸 (清洲MDA) & 菊台 豊 (ダンススペース 豊)

始まりの海 (振付) 石かぢかぢ (Dance Work こかぢ)

My Way 2023 〜この地球に生まれて〜 (振付) 夜久保かぢ

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として全客席数の70%で実施します。

ミュージカル (日本語上演) パジャマゲーム

The Pajama Game Musical

2023年企画公演

翻訳・訳詞・演出 | 中原和樹
音楽監督・指揮 | 角田鋼亮
振付 | 杉田裕美
管弦楽 | セントラル愛知交響楽団

主催 | 公益財団法人名古屋文化振興事業団

Book by George Abbott and Richard Broad
Music and Lyrics by Richard Adler and Jerry Ross
Based on the novel "1772" written by Richard Broad

THE PAJAMA GAME
Is presented through special arrangement with
Music Theatre International (MTI).
All authorized performance materials are also supplied by MTI.
www.mtishouse.com

2023 2/17 FRI 18 SAT 19 SUN
(開場は45分前) 18:30 11:00/16:00 11:00/16:00

会場 名古屋市青少年文化センター・アートピアホール

入場料 S席(1F) 一般 4,000円 友の会・障がい者等・大学生以下 3,600円
<全指定席> A席(2F) 一般 3,000円 友の会・障がい者等・大学生以下 2,700円

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、全客席数の80%で実施します。

Illustration ATSUHI ITO

チケット取扱い

- 名古屋文化振興事業団チケットガイド(名古屋市中区栄三丁目18番1号) TEL 052-249-9387(平日9:00~17:00/郵送可)
- 名古屋文化振興事業団が管理する文化施設窓口(土日祝日も営業) ※工事休館等がありますので、ウェブサイトでご確認ください。
- 電子チケット(一般のみ取扱い) teket URL <https://teket.jp/g/un8jdhtf9i>

公益財団法人 名古屋文化振興事業団

「なごや文化情報」に関するアンケートのお願い

右記の質問にご回答いただき、Email、メールフォーム、FAXまたは郵送にて2023年1月31日(火)【必着】までにお送りください。ご回答いただいた方の中から抽選で20名様に名古屋文化振興事業団の主催事業鑑賞補助券500円分をプレゼントいたします。
※当選の発表は景品の発送をもって代えさせていただきます。お預りした個人情報につきましては、当該アンケートの事務連絡のみに使用させていただきます。

【宛て先】〒460-0008 名古屋市中区栄三丁目18番1号 ナディアパーク8階 (公財)名古屋文化振興事業団 文化情報アンケート係
FAX: (052)249-9386 Email: tomo@bunka758.or.jp

- 内容についてどう思われますか。
①よい ②まあよい ③あまりよくない ④よくない
- 「なごや文化情報」の中で関心を持つ記事はなんですか。(複数回答可)
①表紙 ②Pick Up Gallery ③随想 ④この人… ⑤視点 ⑥zoom up ⑦1年をふりかえって(Spring号のみ掲載)
- 今まで「なごや文化情報」をお読みになって感じたことをご記入ください。
- 今後「なごや文化情報」で取り上げてほしい話題やコーナーがありましたら、ご記入ください。
- ご回答いただいた方の ①お名前 ②性別 ③年代(30代など) ④郵便番号 ⑤ご住所 ⑥電話番号

メールフォームで簡単回答! QRコードからアクセス

頼もしい味方をお探しですか?

集客・販促プランナー アートディレクター 印刷コンサルタント

駒田印刷株式会社 TEL(052)331-8881
〒460-0021 名古屋市中区平和2-9-12 <http://www.kp-c.co.jp>

WE MAKE YOU MOVE 感動をあなたへ

この領域を超えて最高のパフォーマンスを。

20Hz ← → 20kHz

A&V PRO AUDIO & VISUAL & NETWORK
舞台音響 / 映像設備
設計・施工・保守・特注品製作・業務用機器販売

お客様に寄り添った先進のAVシステムを提案する
株式会社 エーアンドブイ
〒464-0846 愛知県名古屋市中区栄三丁目18番1号
TEL/052-761-5400 FAX/052-761-0909

公演・発表会の受付から制作業務全般まで、何でもご用意ください。美術展の受付も対応いたします。

業務内容 ①舞台の企画・制作マネジメント ②イベントの企画制作 ③芸術団体のコンサルティング ④舞台・イベントの運営

MANAGEMENT PRO 株式会社 マネージメント・プロ

〒461-0004 名古屋市中区東区葵2-11-22 アバンテージ葵ビル301
TEL: (052)508-5095 FAX: (052)508-5097 Web: www.mane-pro.com E-mail: mane-pro@mane-pro.com

「ナゴヤ劇場ジャーナル」ではサポート会員を募集しています。
ナゴヤ劇場ジャーナル
◎年間6,600円で毎月お手元にお届けいたします。
◎毎月24,000部発行
※東海地方の演劇・バレエ・音楽公演、ホール、DM等にて配布